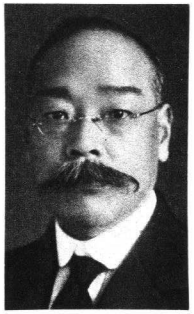
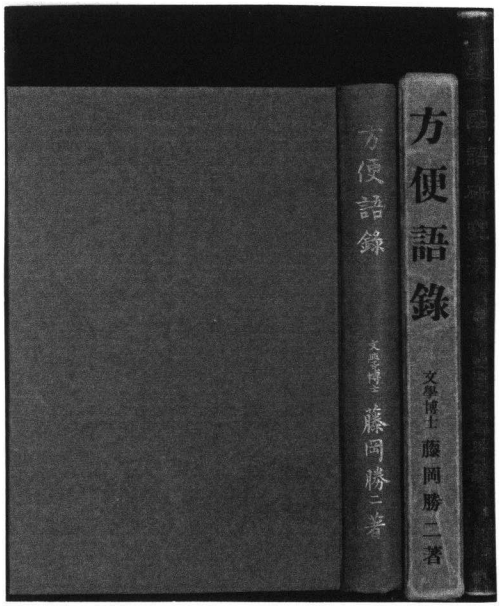
藤岡勝二（ふじおかかつじ）　言語學者、文學博士。明治五年八月十二日廣島縣生れ、昭和十年二月二十八日歿（一八七二―一九三五）。號學山、渴耳、かつじ等。明治二十年帝國大學文科大學博言學科卒。大學院に進んだのち、二十四年ドイツ留學、四十二年東京帝大教授。アルタイ諸語と日本語の類似點を説き系統論に影響を與へた他、滿洲語の研究にも及んだ。また親鸞を奉じ、大正七年には富士川游と共に幹事となり正信協會を創立、毎月の例會で法話を爲し、機關誌『法爾』に宗教體驗記を連載した。

著書に『羅馬字手引』（明治二十九年二月七日新公論社）、『國語研究法』（明治四十年二月九日三省堂書店）、『方便語錄』（昭和十一年二月十五日大來書房）等。